

＜今日の説教のポイント 創世記3章1-7節、20-24節＞

聖書は、神はご自分に背いた人間をそれでも見捨てない、と告げる。

### 1 聖書が世界の創造の次に記すのは、人間が神様に背いた物語。

聖書は、創世記1-2章で神様がこの世界を造られたことを記した後、3章で人間が神様の命令に背いたことを記しています。「エデンの園でアダムとエバが蛇にだまされる話」として知られていますが、丁寧に読むと、蛇に騙される前から人間自身が神様から言われた言葉を変えて使っていることに気づきます(3:3)。つまり聖書は、人間は造られた時は罪の無い存在だったのに蛇に騙されて罪が入り罪深い存在となったとは言っていないのです。創世記3章は、人間が罪の存在となった原因と時を示す原因譚ではなくて、罪なき人間は一人もいないのだということを告げている物語なのです。統一教会はそれとは全く異なる罪の起源とそれに基づくグロテスクな教えを語っているのです。

### 2 なぜ人間は神様に背いたのか？ ロボットではない私たち人間。

では、神様はご自分に背くように人間を造られたのでしょうか？聖書によると、人間が他の被造物と違う点は、人間が言葉を通じて神様とやり取りする点です。主の教会は初代教会以来、「神はご自分にかたどって人を創造された」(1:27)にそのような意味を見て来ました。聖書で初めて「罪」という言葉が出て来るのは創世記4章7節ですが、このヘブル語の原語は「印を失う、目的に達しない」という意味で、神様に似せて造られたのだから神様を示す印として生き、その目的を果たすべきなのにそれができていないことが「罪」の原意なのです。それは、神様は人間を言いつけ通り動くロボットではなく、言われたことに従うこともできれば拒むこともできる、しかし自ら喜んで聞き従ってくれることを期待する存在として造られたのです。しかし、人間は神に背き、神を示す印を示さない道を選んだのです。

### 3 本当の愛の姿を神様に見る。誤っても決して見捨てられない神。

神様はそんな人間を滅ぼすこともできました。しかしそうはなさらず、戒めるべき点は戒め、懲らし、その上でなお見捨てず、むしろ保護し、もう一度神様に立ち帰って神様を見上げて生きる道に向かわせて下さったのです(3:20-24、4:13-16)。旧約聖書は、この後人間がどの様に生きたか、それに対して神様はどのようにされたかを記しています。その先に神様は御子の誕生を用意して下さったのです。